

大学

「第4回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」で 経営学部3年生が「審査員特別賞」受賞



最終選考会
当日の様子は
こちらから

11月7日、株式会社トリドールホールディングス(以下、トリドールHD)が主催する「第4回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」の最終選考会が開催され、本学経営学部栗屋仁美教授のゼミナールに所属する3年生4名(チーム名:「ひとみんチーム」)が、「審査員特別賞」を受賞しました。

本コンテストは、全国の大学生を対象に、トリドールHDの事業内容をベースとした、SDGsの達成に貢献する持続可能なビジネスプランの企画案を募集するものです。主催するトリドールHDや株式会社丸亀製麺の社長、取締役が直接審査し、優秀な提案については商品化も検討されます。4回目の開催となる今回は、過去最多14大学40チームがエントリーし、本学含む5チームが最終選考会に臨みました。

「ひとみんチーム」のメンバーである大塚愛尋さん、宗像剛志さん、山本悠大朗さん、渡邊 萌さんの4名は、「廃棄うどんを活用してこの星を満たせ!!」をテーマに発表。「基準にあっていない麺はどうなってしまうのか?」という疑問をきっかけに、丸亀製麺で廃棄寸前となるうどんをお団子に再活用させる「うだんご」の商品展開を提案し、この度の受賞に至りました。

受賞チームのリーダーを務めた学生からのコメントを以下に掲載します。

学生コメント

大塚愛尋(経営学部3年)

トリドールHDのスローガン「食の感動で、この星を満たせ。」に共感し、うどんを使ったお団子「うだんご」という商品を提案しました。チームでは優勝を目標に、「うだんご」の試作を何度も重ね、美味しい「うだんご」をつくることに成功しました。予選通過後は、毎日ミーティングを重ね、提示資料のブラッシュアップとプレゼンテーションの練習を繰り返し行いました。決勝戦では、素晴らしい企画がたくさんある中で、「審査員特別賞」をいただくことができました。これまでの成果を発揮できたこと、そして認めてもらったことを大変嬉しく思います。「うだんご」はトリドールHDの皆様にご好評をいただいたため、商品化も夢ではないのではと考えております。その際は、私たちもミーティングに加わり、「うだんご」を世に広めることができれば幸いです。

写真左から渡邊さん、宗像さん、栗屋教授、山本さん、大塚さん ▶



大学

「第38回全国書写書道展覧会」の「一般の部」において 外国語学部1年生が「文部科学大臣賞」受賞

9月29日、「第38回全国書写書道展覧会」の表彰式が文京シビックセンターで実施され、本学外国語学部1年の富澤杏樹さんが、「一般の部」において「文部科学大臣賞」を受賞しました。

本展覧会は、全国書教研連盟が主催するもので、文部科学省学習指導要領の精神に沿って一層書写書道の充実発展に尽くしていくこと、を趣旨として毎年開催されています。

今回受賞された「文部科学大臣賞」は、数ある賞の中でも特に優秀な作品に贈られる「特別A賞」の一つとして位置付けられています。

富澤さんからの受賞コメントを以下に掲載します。

学生コメント

富澤杏樹(外国語学部1年)

「文部科学大臣賞」は書道をはじめた時から憧れていた賞で、今回受賞することができて長年の夢が叶いました。この賞は人生で1回しか受賞することができないもので、私自身大変嬉しいです。私の周りの方々も喜んでくださっていて、これからもさらに書道を頑張っていきたいです。

大学

中島修教授が 東京都目黒区から 「自治功労」表彰

10月1日、人間学部人間福祉学科中島修学科長・教授が、東京都目黒区より区政功労者として「自治功労」表彰を受けました。

「自治功労」表彰は、地方自治の発展に尽力し、功労顕著な人に贈られるものです。中島教授は、長年目黒区の地域福祉審議会委員を務めた功績が認められ、今回の受賞に至りました。



高校

高3生が難関国家資格 「危険物取扱者免状(甲種)」を取得

9月に国家資格「危険物取扱者 甲種」の試験が実施され、本校の小牧奈央さん(3萩)が見事合格を果たしました。

「危険物取扱者 甲種」は、第1類から第6類までのすべての危険物を扱うことができる難関国家資格で、大学などで化学に関する学部・学科を卒業するか、同程度の知識(化学に関する授業科目を15単位以上修得)が必要となります。高校生で受験するためには、乙種の同資格を4種類以上取得しないと受験資格を得ることができません。そのため、小牧さんは長い年月をかけて、中学在籍時に1種類、高校在籍時に3種類の乙種資格取得を成し遂げてきました。

そして今回、「危険物取扱者 甲種」の試験に挑戦し、現役高校生としては快挙となる合格を勝ち取ることとなりました。

高校

「第22回生活創造コンクール」で 高3生2名が「努力賞」受賞

10月1日、「第22回生活創造コンクール」(SSC2024プロジェクト)の審査結果が発表され、本校の佐々木璃乃さん(3梅)、中西美穂さん(3萩)が「努力賞」を受賞しました。(2人の研究チーム名は「まこもーず」)

本コンクールは、東京家政大学生生活科学研究所が主催となり、全国の高校生を対象として生活に関する独創的な科学的探究の成果を広く募集するものとして、毎年開催されています。

今回の佐々木さんと中西さんの研究『日本の伝統的な眉墨であるマコモとその耐汗性について』は、今年の3月に開催された「第6回 高校生サイエンス研究発表会 2024」でも入賞を果たしており、これまでの長い期間積み重ねてきた努力や熱心な研究活動の成果として、今回の受賞にもつながりました。



佐々木さん(左)と中西さん(右)

大学 文京祭・あやめ祭開催

10月19日・20日の2日間、本郷キャンパスで文京祭、ふじみ野キャンパスであやめ祭が開催されました。

本郷キャンパスでは、今年で第60回という節目を迎え、「cele6rati0n」(celebration)をテーマに、ゼミ展示や模擬店、ライブの他、プロアスリートを招いたバラスポーツ体験や、文化教養講座としてパシフィックフィルハーモニア東京によるコンサート、地域の子ども達に楽しんでもらう「キッズ共和国」や警察・消防展示などが行われ、総計1,542名の来場者が訪れました。また、外国語学部の大伴宗弘准教授、高橋舞准教授、松崎武志准教授で結成されたバンド「93's」の演奏も会場を盛り上げました。さらに、文京祭と同日開催で、一般社団法人SAVE IWATEとの緊急コラボ企画として、能登半島地震及び豪雨被害の支援プロジェクト「能登まつり御膳(輪島塗) チャリティプロジェクト」も実施されました。

ふじみ野キャンパスでは、「Milestone~100周年の軌跡~」をテーマに、サークル団体による公演、タレントトークショーの他、学生や教職員考案の「ふじみ野キャンパスオリジナル」の限定販売、自衛隊車両展、人間学部・保健医療技術学部による公開講座などの新規企画も行われ、総計2,281名の来場者が訪れました。

企画から実施まで担当した、文京祭実行委員会とあやめ祭実行委員会の学生からは、以下のコメントが寄せられています。

文京祭(本郷キャンパス)

◆文京祭実行委員長 天坂安都(外国語学部3年)

今年度は文京祭が第60回、学院創立100周年という節目の年に委員長を務めさせていただきました。テーマ名も「cele6rati0n」というお祝いを意図した文京祭を目指して、局員全員で協力してきました。運営するにあたって多くの壁がありましたが、無事2日間実施することができ、とても良い経験になりました。

◆イベント局 キャンパス部長 山田江里(経営学部3年)

今年の文京祭は、外部団体・ゼミ・委員会の方々の協力、バラスポーツ体験の実施などにより、大人から子どもまで多くの方々に楽しんでいただくことができました。今回のテーマである「cele6rati0n」の通り、第60回という節目をみなさんにお祝いでいただけた文京祭になったと思います。

◆ステージ局 ステージ局長 山本明達(経営学部3年)

今年度は文京祭60回目、学院創立100周年とお祝いの年であり、実行委員会スタッフと来場者の方と一緒に楽しめる企画を昨年から考えてきました。また、ビンゴ企画や体験型クイズ企画、2日間にわたるアーティストパフォーマンスなど、多くの方に楽しんでもらえました。60回目の文京祭が今まで以上に盛り上がったので嬉しかったです。

あやめ祭(ふじみ野キャンパス)

◆あやめ祭実行委員長 岩淵千佳(人間学部3年)

今年度のあやめ祭では多くの方々に楽しんでいただけたと感じています。準備をする段階で大変なことはたくさんありましたが、学部・学科や学年など関係なく協力したことで、私たち実行委員もあやめ祭を楽しむことができました。

◆総務局長 佐藤大成(人間学部3年)

あやめ祭の開催に向け、出展募集や説明会などで団体とのやり取りが主な仕事でした。総務局長として前に立って話し、各団体の代表者とやり取りを重ねる中で、コミュニケーションの重要さと責任感を強く感じました。この対話の積み重ねが、無事あやめ祭を開催することに繋がったと感じているので、来年以降にも繋げていきたいです。

◆アーティスト局長 渡辺柚葉(人間学部3年)

トークショーやライブの運営を担当し、特にゲストの選定には悩みました。学院創立100周年の節目を迎える中、集客への不安もありましたが、より良いものになりたいと思い、アーティスト局長としての責任感を持って進めていきました。当日は多くの方にご来場いただき、無事に終わることができて良かったです。企画の重要性を実感するとともに達成感も得ることができました。



幼稚園 運動会開催

秋の一日、ふじみ野幼稚園と文京幼稚園の園庭で、元気いっぱいの運動会が開催されました。

ふじみ野幼稚園

10月6日、それまで続いた雨が上がり、ふじみ野幼稚園「うんどうかい」を行いました。いつもの園生活やおそびと同じように、子ども一人ひとりの学びと育ちの機会です。園児のみならず、保護者の皆様、先生たちが一緒に楽しみ、やってみた実感をみんなで共有できるように準備しました。年少・年中・年長それぞれに応じた構成で、ダンス、親子の種目、かけっこを行いました。また、卒園した小学生の子どもたちにも再会できました。今年も、子どもたちの活躍と笑顔、そして保護者の皆様から温かい応援と拍手でいっぱいになりました。年長組のおわりのセレモニーでは、サプライズで園児が太鼓をたたいて盛り上げてくれるなど、充実した運動会となりました。

【Photo Gallery】



文京幼稚園

10月12日、第一部は年少組、第二部は年中・年長組の二部入れ替え制で運動会を行いました。**【年少組】**●かけっこ●リズム表現●親子ふれあい体操に出場。初めての運動会はドキドキしながらも笑顔がいっぱい。園生活に慣れてきて楽しく取り組む様子を見ていただきました。**【年中組】**●障害走●リズム表現●クラス対抗競技に出場。体操で習った種目を披露し、また、自由にのびのびと全身を使って表現をする姿に多くの成長が感じられました。**【年長組】**●体操3種目発表●パラバルーン●リレーに出場。各々がチャレンジ精神を発揮する姿、仲間と協力し合い合う様子は、日々園生活の中で体験を重ねてきた賜物でした。どの子ども体だけでなく、心も大きく成長していました。

【Photo Gallery】



中高 文女祭開催

10月26日・27日、駒込キャンパスで文女祭が開催されました。今年のスローガンは「恋せよ乙女、恋せよ文女(あやめ)」。開催期間中に撮影したチエキで「100」のオブジェをつくる中高生徒会合同企画や、情報科の授業で生徒たちがデザインした「創立100周年記念ポスター」の展示など、本学院の100周年に関連した企画も実施されました。

中学

今年も在校生だけではなく、家族・受験生・一般の方にも楽しんでもらえるよう、来校者参加型企画や探究発表、学習展示、部活動発表に、昨年以上に力が注がれました。中学生実行委員で運営したお祭り企画は今年も大好評で、特に100周年企画として行った『100を釣ろう』の景品としてつくった星形キーホルダーや、『箱の中身はなんだろう』の景品として配られたシールを貼ったペンは大人気でした。(保護者の方がご厚意で作成してくださいました。感謝申し上げます)

中学生全員で準備をしてきて、当日笑顔で「ありがとうございます!」という来場者の声に、生徒たちからは喜びが溢れていました。

以下、中学生生徒会長高井莉瑚さん(3栗)のコメントをご紹介します。

「景品にした100周年記念のキーホルダーやペンが人気で、喜んでくださる方が多く、非常にうれしかったです。また、お菓子釣りでは、お子様がお菓子を釣れたときの喜んだ顔が良かったです。皆様に楽しんでもらえるような文女祭ができて心からうれしく思います」



BUNKYO GAKUIN 100TH ANNIVERSARY TOPICS SINCE 1924



高校 「英語スピーチコンテスト」100周年記念大会開催

11月6日、「第52回英語スピーチコンテスト」が駒込キャンパスジャシーホールで開催されました。本年度は学院創立100周年記念大会として、「100」「女性」をテーマにスピーチが披露されました。清水直樹校長の開会挨拶後、生徒会長岩崎文音さん(2藤)が英語で堂々とした開会宣言を行いました。司会是有賀和奏さん(2藤)、大柳美結さん(2藤)、菊池奈々美さん(2藤)が務めました。

中高の学監でもある文京学院大学恒吉僚子グローバル担当副学長・教授はじめ、多くの観客を前にして緊張した雰囲気の中、暗唱部門5名、スピーチ部門7名が素晴らしい発表を披露しました。審査員は、アオバジャパン・インターナショナルスクール文京キャンパス校長Mr. Damian Rentoule、セント・ジョンス大学准教授Mr. Jeffrey Dubois、本校教諭Mr. Allan Nisbetが務め、審査の結果、次の生徒が受賞しました(敬称略)。



- 【暗唱部門】**
 - 1位 長島蓮奈(1藤)
 - 2位 横尾心海(1梅)
 - 3位 ラティブ ラビバ(1萩)
- 【スピーチ部門】**
 - 1位 カシム アマン(1梅)
 - 2位 須藤恵都(2桜)
 - 3位 高橋瑠香(2萩)
- 【島田賞】**
 - カシム アマン(1梅)

カシム アマンさんは最も優れた発表をした生徒に贈られる「島田賞」も受賞。1位~3位入賞者に清水校長から賞状と楯が授与され、スピーチ部門1位のカシムさんには恒吉学監より「島田賞」のトロフィが贈られました。表彰の後、3人の審査員より今回の経験の大きさを語る講評があり、恒吉学監からの生徒を讃える挨拶で白熱した大会は終了しました。

◀恒吉学監(左)とカシムさん(右)

中高 「百周年記念漢字百題コンテスト」開催

中学・高校の国語科の学院創立100周年企画として、「百周年記念漢字百題コンテスト」が実施されました。受験生である高校3年生も参加するため、6学年同一問題として、大学入試頻出の漢字300題が夏休み前に課題として提示されました。

そして9月、30分間で漢字100題に答えるテストを実施。採点は本校に試験導入されている「自動採点システム」を用いて行われ、受験者には「Google Classroom」を通じて答案が返却されました。中学生にはさすがに難しい問題でしたが、以下の高校生の3名、そして中学生も1名が見事満点・表彰となり、賞状と副賞が授与されました(敬称略)。

【満点・表彰者】

- 高校生
 - 新明碧(3藤)
 - 大柳美結(2藤)
 - 波多野衣咲(2梅)
- 中学生
 - 渡邊結衣(3栗)



◀左:新明さん 右:大柳さん
左:波多野さん 右:渡邊さん

学院

2024 JICA課題別研修にて5か国からの研修員受け入れを実施

独立行政法人国際協力機構(JICA)とともに、2024年度 課題別研修「全人的教育：日本の実践的なアプローチ」が、昨年に引き続き実施されました。本研修は、開発途上国から研修員として参加する教育省・地方教育機関の職員に対し、日本式教育モデルを実践型研修で学ぶ機会を提供し、自国で全人的な枠組みから教育できるようなアクションプランの策定を支援することを目的としています。

9月30日および10月2日～4日の計4日間、本校で5か国(エジプト、マダガスカル、ネパール、モンゴル、ブータン)からのJICA研修員7名の受け入れプログラムが実施されました。給食や清掃、学活、部活動などの見学や授業参観をはじめ、華道体験による礼法実習、日本の探究活動や食育に関する講義など、さまざまな実践研修が行われました。

また、研修員による自国文化に関する発表も行われ、生徒たちにとってもそれぞれの国をより身近に感じることができた場となりました。

本校での研修を終えた後は、国内の幼稚園、小・中学校、教育委員会などを訪問・視察し、10月11日、文京学院大学本郷キャンパスにて、本研修の修了式が執り行われました。修了式当日は、研修員による最終発表と修了証書の授与が行われ、約2週間にわたる日本での課題別研修が幕を閉じました。

今回の研修員受け入れを通して、本校の教職員や生徒にとっても、日本(自校)の教育の良さをあらためて知る貴重な機会となりました。



修了式での研修員と関係者一同



学活で中高生と語る研修員



「華道」体験の様子



かるた部の部活動を見学

大学院

「日本臨床検査学教育学会学術大会」保健医療科学研究科1年生が「優秀発表賞」受賞



8月23日・24日の2日間、新潟大学で「第18回日本臨床検査学教育学会学術大会」が開催され、大学院保健医療科学研究科保健医療科学専攻検査情報解析分野 修士課程1年に在籍する 藤井彩音さんが、「優秀発表賞」を受賞しました。

医学が目覚ましく進歩し、これまで以上の知識・技術の習得が求められている中、本大会は「多様化する医療現場を見据えた知技の学び」をテーマに実施され、藤井さんは「Acinetobacter baumanniiにおける耐性菌出現素子濃度(MPC)の検討」について研究発表。感染症を治療する薬剤の投与量によって耐性化が生じる可能性があり、耐性化にまつわる遺伝子変異が起こる薬剤濃度を評価することはこれまでになく、新規性に富む内容である点が評価され、今回の受賞となりました。

大学

「関東甲信越ブロック理学療法士学会」五十嵐達也助教が「最優秀賞」受賞

10月5日・6日の2日間、千葉県幕張メッセで約1,600名の理学療法士が参加した「第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会」が開催され、保健医療技術学部 理学療法学科の五十嵐達也助教が「最優秀賞」を受賞しました。五十嵐助教は「フレイルリスクは高齢水頭症患者の術後の日常生活活動に影響する：DPCデータベースを用いた傾向スコア解析」をテーマに発表しました。多くの入院データを蓄積している疫学レセプトデータベースに登録された高齢水頭症患者を対象に、既存のデータからフレイルリスク(心身が虚弱状態になる危険度)を算出することができる指標を用いて、術後の日常生活を送るために必要な動作(日常生活活動)への影響を、傾向スコア解析という解析手法を用いて検討したものです。一般の施設でも活かせる点が研究の強みとして評価され、今回の受賞に至りました。



大学

藤沢市等との産官学 国際連携教育プログラム「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT」実施

10月6日・7日の2日間、本学と協定を結ぶ神奈川県藤沢市等との連携により、今年で3回目となる国際連携教育プログラム「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT」が実施され、米国をはじめ8か国の大学からの留学生と本学学生の計40名が参加しました。

昨年に引き続き、藤沢市在住で日本文化を新たな形で世界に発信している藍左師・守谷玲太氏(株式会社アートモリヤ)監修のもと、藤沢市を舞台に、世界に誇れるサステナブルな伝統工芸「藍染」の体験に加え、藤沢市藤澤浮世絵館での浮世絵の鑑賞と刷り体験も実施されました。藍染体験では、染まり具合を確認する度に、鮮やかな藍の色に歓声があがりました。また、市内の白旗神社では宮司による神社参拝体験が行われたほか、書道体験を実施。書道家によるライブパフォーマンスでは、留学生達も目を奪われていました。

2日目は午前中に、歌舞伎のメイク「隈取」体験、日本舞踊の体験も実施。午後は、前日に藍染したTシャツを着て、江の島でのフィールドワークに出かけました。江の島では、キャンドル作りを体験した後、湘南・鎌倉・箱根を一望できるシーキャンドル展望台まで足を運び、眺望を楽しみました。

留学生たちは事前学習で藤沢市の歴史や観光並びに、藍・藍染めに関する基本知識を学び、現地フィールドワークを通して、日本の伝統工芸や美術・歴史についての理解を深めるとともに、日本文化を多角的な視点から学びました。

11月18日には、本プログラムにおける成果報告会が藤沢市役所で実施されました。報告会では、留学生たちがグループ毎に制作・SNSで発信した動画を藤沢市の関係者に披露し、動画に込めた想いやメッセージを日本語で発表しました。

今後も本学は、藤沢市との連携を維持・強化し、様々なプログラムを展開していきます。



書道に挑戦する留学生たち



藍染体験の様子



歌舞伎メイク「隈取」で街を歩く留学生たち



江の島フィールドワークでの集合写真

特集 注目のトピックス

Topic

01

保健医療技術学部理学療法学科「卒業生学術交流会」開催
望月 久名誉教授の基調講演と8名の卒業生を講師とした交流会を開催

9月28日

Topic

02

10月20日

保育実践研究センター「公開研究会」(保育関係者・卒業生対象)開催
「未来の保育について語ろう～子どもの生活を支える～」をテーマにディスカッション実施

Topic

03

11月9日

「第23回文京エコ・リサイクルフェア」に人間学部生11名が参加
「地球温暖化の抑制～ライフスタイルの变革～」をテーマにしたブースを出展

